

州都構想【概要】

平成25年3月 熊本県

構想の目的

- 多極分散型発展をめざすこれからの九州にあって、熊本がどのように貢献できるかを考えるきっかけとなる
- 州都をめざす過程で、より品格があり、活力のある県へとレベルアップを図る
- 道州制が実現したときに、すぐに熊本が州都候補になれるよう準備する

	第1章 州都の条件	第2章 州都のイメージ	第3章 熊本の現状	第4章 今後の取組みの方向性
地理的視点	○道州内の主要都市から容易にアクセスできること	○高速交通網が整備され、九州の主要都市と短時間で行き来ができる	○九州の中央に位置し、広大な平野が存在 ○阿蘇くまもと空港、縦軸としての九州縦貫自動車道・九州新幹線が存在 ○九州の横軸としての大分・宮崎との幹線道路ネットワーク等が十分に結ばれていない	【横軸を結ぶ】 ○熊本と大分、宮崎との横軸交通としての幹線道路ネットワーク等の充実
経済的視点	○第三次産業が集積し、経済面でもある程度の拠点性があること	○多くの人が交流し、知識集約型の産業が集積 ○起業しやすく、新しい産業が立地	○南九州を統括する支店が存在 ○市街地の賑わい ○農林水産業が盛ん ○自給自足型の強い経済 ○域内循環型で結果として他地域との結びつきが弱い経済 ○世界と空路、航路で十分に結ばれていない ○大規模なコンベンション施設が不足	【知の集積と交流拡大】 ○知的産業の集積 ○国内大都市圏、アジア市場との経済交流の拡大 ○国際的な空路、航路の拡充 ○大規模コンベンション施設の整備と MICE の誘致
視点 安全・安心の	○危機管理の拠点となりうること ○災害に強い都市であること ○治安環境が安定していること	○水や食料等の資源が豊富にあり、道州内全域を支援できる能力が高い	○豊富な水・食料等の資源を生かした危機に強い産業構造 ○陸上自衛隊西部方面総監部の存在 ○研究分野から臨床分野まで高水準の医療資源が集積 ○災害等の緊急時に他地域と結ぶ機能が不十分	【九州を支える危機管理の拠点づくり】 ○(再掲)熊本と大分、宮崎との横軸交通としての幹線道路ネットワーク等の充実 ○空港の防災拠点化等、九州の危機管理拠点としての機能充実 ○防災・減災対策や治安対策等、安全・安心な都市づくり
視点 品格・暮らしやすさの	○高い品格があること ○生活の質が高いこと ○教育・研究環境が充実していること	○歴史・文化が息づき高い品格がある ○学園都市としての充実した教育・研究環境 ○多様な価値観を認め合い、転入者も暮らしやすい ○人と人との絆、自然とのつながりを実感	○熊本城などの歴史・文化 ○地下水や阿蘇、天草等の身近にある豊かで美しい自然 ○藩校「時習館」や「五高」等の伝統を受け継ぐ高等教育機関の集積 ○人と人との絆が感じられる地域社会 ○熊本の魅力や品格を外部に発信できていない ○公共交通の使いやすさに課題がある	【品格あるオープンで魅力的な生活圏の形成】 ○歴史・文化や、自然など、熊本の品格を形作る宝の保全、継承 ○地域を担う優れた人材の育成、活用 ○熊本の品格・魅力の外部への積極的な発信 ○おもてなしの心に満ちたオープンで魅力的な生活圏の形成 ○誰にとってもわかりやすく利用しやすい公共交通の環境づくり
政治的視点	○政治・行政の中心的機能を担うポテンシャルを有し、道州内の各地域から支持されること	○九州の方向性を議論し、決定する機能がある	○九州農政局等の国の出先機関の存在 ○中国・広西壮族自治区や韓国・忠清南道、アメリカ・モンタナ州との30年に及ぶ交流 ○九州における中心的な機能が相対的に低下している ○国際機関が少なく、国際的な会議の開催も少ない	【九州の良き世話役】 ○九州全体へのサービス機能を持つ公的施設の誘致 ○観光、地域振興等、県境を越えた連携を推進し、官民挙げての九州一体となった取組みの事務局的機能を担う ○領事館や国際機関、NGOの事務所等の世界とつながる交流拠点の誘致

○住民は、安全・安心で品格ある環境の中で、クオリティの高い生活を実感できている
○政治・行政の中心として九州各地と緊密に結ばれ、多くの人々が交流し、全国、世界に開かれ経済面においても活力が溢れている

熊本と九州を「結ぶ」
熊本を全国、世界に「開く」
○九州各地とのつながりや、全国や世界との関わり方が不十分
○九州の中心的機能を担う十分な潜在能力がある

○全九州から親しまれ、認められる熊本へ
○州都議論への県民一人ひとりの主体的参加

支持されるためには、住民の機運の醸成が必要

